

D I 調 査 一 平 成 19 年 度 現 地 実 態 調 査 先 よ り 一

◆判断項目◆

<農業法人>

- ・法人化について
- ・経営について
- ・民間金融機関(農協・都銀・地銀・信用金庫等)からの借入について

<農協>

- ・農業融資について
- ・融資の手法について
- ・融資後のフォローについて

<銀行・信用金庫>

- ・農業融資について
- ・融資の手法について
- ・融資後のフォローについて

調査対象数

農業法人	農協	銀行・信用金庫	合計
40件	19件	28件	87件

・DI調査とは、業況判断をする際によく用いられる手法で、DI値という数値により状況を判断する。具体的には「よい」という選択から「悪い」という選択を引いて、もし全ての回答が「よい」であれば100、全てが「悪い」であればマイナス100となる。このDI値により景況等を数値として判断とする。

・今回、現地実態調査時にDI調査原票に従って、調査先よりヒアリングを行った。DI算出に際しては、調査原票の設問の「1」から「3」を引いた、「あり」―「なし」、あるいは「はい」―「いいえ」を判断基準としてその傾向値を探った。

《農業法人》

(DI: %ポイント)

1. 判断項目

<法人化について>

項目	指数
法人化のメリットがあった	83.8%
税金の面でメリットがあった	30.3%
経営の面でメリットがあった	87.9%
融資の面でメリットがあった	85.3%
対外的信用の面でメリットがあった	88.2%
人材確保の面でメリットがあった	54.3%
法人化の際、アドバイスを受けた	29.7%
増資計画している	2.6%
設備投資を考えている	69.2%
設備投資は規模拡大の為	29.0%

<経営について>

項目	指数
経営実績はよくなっている	12.8%
販売単価は上がっている	-25.6%
生産コストは改善されている	-46.2%
資金繰りは楽になっている	-12.8%
経営環境はよくなっている	-5.1%
今後の経営見通しは良くなる	18.9%
経営の拡大・多角化を行っている	44.7%
経営の強み(ポリシー)がある	81.6%
融資の際にその強みが考慮される	56.3%
経営におけるネットワークを持っている	75.7%
融資についてネットワークはメリットになる	36.4%

<民間金融機関からの借入について>

項目	指数
必要な融資が受けられず、困った経験がある	-39.5%
メインバンクがある	73.7%
メインバンクがあることは融資を受ける際に有利になる	58.1%
借入先を増やすつもりがある	-43.6%
複数の取引先は融資の判断に有利になる	28.1%
現在の金融機関に満足している	53.8%
融資姿勢は以前に比べ変わった	54.1%
無担保・無保証の融資は増えていると思う	32.4%
動産担保融資をやってみたい	8.3%

◆分析◆

- 法人化について・・・法人化をしたことについては、大多数がメリットを実感している。
特に経営、融資、対外的信用において高い傾向値を示した。
反面、税金対策にはあまり効果を感じていないようである。
- 経営について・・・生産コストの上昇、販売単価の低下、という経営環境の悪さがうかがえる。
特に昨今の原油・飼料の高騰は、ここでも高いマイナス数値により裏打ちされる。
多くの経営者が自らの経営の強み及びネットワークをもっている。
- 民間金融機関からの借入について・・・メインバンクを持っているとの意識が強く、特に現時点で金融機関に対する不満はあまり見られない。
無担保・無保証の融資についても増えていると実感している。

《農協》

(DI:%ポイント)

1. 判断項目

<農業融資について>

項目	指数
農業の環境は、景況感はよい	-63.2%
設備資金の融資は増加している	-5.3%
運転資金の融資は増加している	0.0%
制度資金よりプロパー資金により注力する	5.3%
プロパー資金では常に担保、保証(協会保証)を取る	5.9%
無担保無保証融資(代表者保証は除く)を実行している	-57.9%

<融資の手法について>

項目	指数
動産担保融資に対する取組みを積極化したい	-57.9%
格付けやスコアリング融資を実施している	-21.1%
農業分野では格付けやスコアリングは有効と考える	22.2%

<融資後のフォローについて>

項目	指数
融資後のモニタリングは営農部門と一緒に行う	0.0%
関係団体を含め融資先支援を行っている	-15.8%

◆分析◆

- 農業融資について・・・農協から見た農業の景況感の悪さがうかがえる。
無担保・無保証についても実施する環境にはないと判断と見られる。
実際、資金需要においても盛り上がりには欠けると判断される。
- 融資の手法について・・・新しく注目されている動産担保融資に取組む姿勢はきわめて弱い。
格付けやスコアリングが農業でも有効と判断するも、実際の対応には慎重姿勢をくずさない。
- 融資後のフォローについて・・・農業融資において必要とされているモニタリングについて、状況次第との判断があり、融資先支援についても同様である。

《銀行・信用金庫》

(DI:%ポイント)

1. 判断項目

<農業融資について>

項目	指数
農業の環境は、景況感はよい	-23.1%
設備資金の融資は増加している	16.0%
運転資金の融資は増加している	16.7%
今後農業分野への融資に注力する	48.1%
農業向け資金(商品)を用意している	-7.4%
上記商品の融資額は増えている	40.0%

<融資の手法について>

項目	指数
動産担保融資に対する取組みを積極化する	11.1%
スコアリング融資を農業分野で実施している	3.8%
スコアリング融資は農業分野でも有効と考える	25.9%

<融資後のフォローについて>

項目	指数
融資後のモニタリングを積極的に行う	15.4%
融資先支援を行っている	25.9%

◆分析◆

- 農業融資について・・・景況感は悪いとしながらも、農協に比べるとそれほど悲観的ではない。
融資も総合的に増えており、特に農業分野の融資に積極性が見られる。
- 融資の手法について・・・動産担保融資に対する取組みも、農協より関心は高い。
スコアリング融資が農業分野においても有効としているが、実際に実施するところまでは至っていない。
- 融資後のフォローについて・・・モニタリングの実施や融資先に対する支援は、農協に比べ積極的である。